

良識ある保守主義・情報公開

吉田つとむ

町田市議会議員 4期連続トップ当選

<編集発行>

〒194-0011 町田市

成瀬が丘 1-14-12

サンホワイト E103-13

自宅 042-795-7361(fax 兼用)

市議会議員 吉田つとむ

yoshidaben@gmail.com



白米の千枚田と、農業世界遺産「能登の里山里海」①

能登半島地震に見舞われた能登地方の奥能登地方(去年は中能登地方を視察)を、一人で視察しました。合わせて「白米の千枚田」を訪れ、現地で感じたことを記載しました。この地域は「能登の里山里海」とされ、2011年に世界農業遺産(GIAHS)に認定されました。石川県能登半島の4市5町に広がる地域で、国内で初めて世界農業遺産に認定されているものです。

海岸は幅広く隆起して岩肌が出ている
棚田は右方向に大きく展開する



世界農業遺産 能登の里山里海の指定では、農業分野において、この平野部の狭隘さによる地域での棚田、ため池の伝承、農業、杜氏などの兼業を特徴と見ているようでした。約5haの広さに1004枚の棚田で造られた「白米の千枚田」も震災被害を受け、山肌の土砂が流入したとのことでした。クラウドファンディングの方法で募金が集められ、ボランティアも入って修復されていました。ただし、現地に到着するには、道路を迂回をしたり、工事中の道路を通ることが欠かせません。また、被災農家も、金沢方面に避難したままの方がいました。

田植えではなく、直播の方法も取り入れているというが、夏や秋に見れば景観が変わっているでしょう。この日は、小型の耕運機による田起こしや、スキで畔を作る作業が行われていました。(続く)

輪島塗の現状と未来の展望①

能登半島地震の発生で、輪島塗の工房が大きな被害を受けたということでした。輪島漆器商工業協同組合(■漆器共同販売事業■漆等の共同購入・加工事業■展示会等の需要開拓事業を行う)の説明によると、組合員103事業所 朝市周辺が12事業所と5店舗の17事業所が火災で全焼。他に30事業所ほどが全壊、30事業所ほどが半壊以上、その他の全事業所が準半壊・一部損壊という被災状況でした。その後の豪雨では19事業所が床上・床下の浸水被害があつて二重の被害になったということでした。しかしながら、再建を目指して、失った道具や購入を進めていることが令和7年1月の時点で協同組合によって明らかにされています。

ネットのAI概要では、【輪島塗の生産額の推移】1991年:180億円(ピーク、2018年:推計38億円、2022年:24億円。【輪島塗の従事者数の推移】1990年:2893人(ピーク)2022年:1045人(約30年で6割減)とされています。震災があつた2024年はもっと極端に製造、売り上げが減少したことでしょう。もちろん、生産設備は、輪島漆器商工業協同組合の説明通りに、旧来に比べて一定の回復が図られるでしょうが、【輪島塗の生産額の推移】にある数字自体を回復しうるような改善、あるいはそこから考察される売り上げの回復が見込まれるかと言えば、なかなか展望は開けないでしょう。そのことは、一人当たりの生産額の激減状況から推測できるものではないでしょうか。(続く)



* 来訪時、客は外国人の二人連れと私だけでした

○支持政党なしの方々の代表＝吉田つとむの基本理念は、良識ある保守主義です。

○吉田つとむは、「若者育成」をトップの政策に掲げています。

○水耕栽培メロン 世界一決定戦を開催しよう!

町田市議会の無所属会派は、政党に所属しない議員3名で構成し、明快な議論を提起します。

若い世代の育成に全力をささげる
町田市議会議員(支持政党なしの方々の代表)

吉田つとむ



ブログ 個人HP



メールは
左記を読込
して送信



好評インターンシップは、第
55期生が終了しました。

インターン体験記⑪森田 瑛斗

日経新聞鈴木亮編集委員と面談して

本日は日経新聞本社に伺い、編集委員の鈴木亮氏とお話をさせていただきました。

スマートフォンの登場によりメディアの形もここ10年で大きく変化しました。それを踏まえ質問をさせて頂き、日経新聞の現状や記者にとって大切なことを教えて頂きました。まず初めに、日経新聞の強みを伺ったところ、電子版の存在とイギリスのフィナンシャルタイムズ買収などによるグローバル化を挙げられていました。電子版を導入するのが2010年と他社と比べても早かったため、発行部数の減少にもかかわらず、売り上げ面では伸びているとのことでした。また、フィナンシャルタイムズにインターンシップという形で社員を送ることで、海外で活躍する記者を育成することも以前より容易になっているとおっしゃっていました。



記者として結果を残していくためには何が必要か伺ったところ、特に人脈が重要で、ノウハウ(Know how)ではなくノウフー(Know who)が大事だというお話は非常に興味深かったです。「人と会うのが嫌いな人は記者になれない」とも語られていました。十分な前提知識をもとに、情報がどこにあるのかを考え、自分の足で稼ぎに行くという地道な積み重ねが大切なのだと感じます。

また、電子版の紙版との大きな違いとして挙げられていたのが、記事のアクセス数が分かるためにどの記事が注目されているのかフィードバックを得られるという点です。人気な記事を把握し、傾向を分析することでより一層読者を増やすことが出来るのだと思います。一方読者によりすぎてしまうがために、記事の内容に偏りが生じたり、伝えなくてはならないことを伝えることが難しくなったりしてしまう恐れもあると感じます。メディアのバランス感覚がより一層問われる時代になるのだと思います。

東京大学医学部新卒 森田瑛斗(第55期生)

<吉田つとむのコメント>この日、大手メディアの一つである日経新聞社を訪ね、編集委員である鈴木亮氏と面談の機会をセットしました。鈴木亮氏と私とのつながりは同氏が学生時代から縁があったもので、長年のお付き合いになります。その間、年上の私が彼に与えたことは国会議員との接触機会の提供以外になにもないのが現実ですが、その間に縁が切れることなく現在まで続いています。鈴木氏の人柄と言えましょう。

その間に、鈴木氏は自身が望んだとおりに経済メディアの中に身を起し、絶えず努力して現在までの確固たるポジションを重ねた人材です。そのことは鈴木亮氏が日経電子版の初代編集長を務めたキャリアからも伺えるものでした。

そしてこれらの側面のほかに、私には彼の学生時代から備わる才能として物事に対する「事件の核心」をつかむ天性が備わっているように感じています。これこそが、今に至るも、彼の活躍の基本になっているように考えます。



◎吉田つとむのインターンシップは1998年に開始、2025年3月末までに111名が参加しました。

◎第55期インターン生の森田瑛斗さんは、医師国家試験に合格し、4月1日から研修医として社会人。

◎次回のインターンシップは、2025年夏季第56期生の募集を開始しました。